令和８年度　第１回　稲沢市社会教育委員会・公民館運営審議会　会議録

会　議　名	令和８年度　第１回　稲沢市社会教育委員会・公民館運営審議会
開催日時	令和８年５月 19 日（火）　午後２時 00 分～３時 35 分
開催場所	稲沢市勤労福祉会館　３階　第２・３会議室
主　　催	生涯学習課
議　　題	◎あいさつ 協議事項 １　令和７年度主要事業報告について ２　令和８年度主要事業に係る取り組みについて ３　稲沢市の公民館について ４　その他 （１）部活動地域移行の現状について （２）その他
出 席 者	【委員】 吉川光彦、朝日章夫、定行加保里、大室有美、服部みどり、栗林芳彦、藤田美知子、牛嶋みゆき、安藤学、　以上９名 【事務局】 教育長、教育部長、生涯学習課長兼美術館長、スポーツ課長、図書館長、各課グループリーダー、部活動地域移行コーディネーター、生涯学習課統括官　計 13 名
備　　考	傍聴者なし

【会議概要】

◎あいさつ

（教育長）

・稲沢市の社会教育行政に対し、格別の御高配を賜り、また、本日は大変御多用の中御出席をいただき、心から感謝を申し上げる。

・今年は社会教育に関わる大きなイベントが愛知で開催される。一つは愛知・名古屋 2026 アジア競技大会で、開催が近づくとともに、大会に向けての機運を醸成している。

・多くの市民の皆様がボランティアとして大会に御協力をいただく予定になっており、多くの皆様方の思いが結集して、大会が成功裏に終了することを祈念するとともに、このスポーツイベントを通して、子どもたちをはじめ多くの市民の皆様が大きな感動が味わえるようにと願っている。

・もう一つは、 11 月 26 日から 27 日にかけて一宮市にて開催される全国公民館研究大会・東海北陸公民館大会愛知大会で、大会の主題を「つどう・まなぶ・むすぶ（集う・学ぶ・結ぶ）で実現するウェルビーイング―愛知から始まる地域共生の形―」としてお

り、人生 100 年時代に求められる公民館活動に役立つ情報発信がなされる予定になっている。

・公民館活動に限らず、集う・学ぶ・結ぶは、今稲沢市が取り組んでいる様々な社会教育の課題や事業に通ずるものであり、私どもにとっても大いに参考となる内容が展開されるものと期待している。

・本日は、中学校部活動地域移行の推進にあたっている部活動地域移行コーディネーターも出席している。協議事項の中で、部活動地域移行検討委員会での進捗状況等について説明をさせていただく。

・本日は、令和 7 年度の事業報告、令和 8 年度の主要事業にかかる取組を始め、昨年度から都度報告をさせていただいている 稲沢の公民館について、また部活動地域移行の進捗状況についてなど、様々な内容について御意見をいただきたいと思っている。

・最後に、委員の皆様の更なるお力添えをいただくことをお願い申し上げる。

（委員長）

・社会教育とかの中で、生涯学習課とかいろいろな課があるが、自分が思うのは、では自分は何を参加しようかということが大事ではないかということを思う。アジア大会ではエントリオ会場にて、ブロードキャストの役割でボランティアとして参加することに落ち着いた。放送関係の人の接待みたいな形でやらせていただけるということで、自分としては、そういう意味で参加できるということは、本当に自分にとっても良かったかなと思うとともに、御迷惑かけない程度に参加しようと思う。

・第２回社会教育委員会でその結果をまた御報告させていただきたいと思うので、皆さんもいろんなそういうこと参加していただいて、少しでも、いろんな分野を、知るのがよいのではないかと思う。

◎協議事項

１　令和７年度主要事業報告について

資料１「令和７年度　主要事業報告書」について生涯学習課、スポーツ課、図書館、美術館の順で説明。

（生涯学習課）

・文化財保存修理において、稲葉の禅源寺勅使門保存修理を行い３月末に完了した。こちらについては所有者の同意が得られたため、5 月 30 日に開催する文化財公開デーの会場とさせていただくことができた。今後も文化財の活用を進めたいと考えている。

・市民会館では、整備改修事業として、小ホール音響設備改修更新工事を行った。また、初めての試みとしてクラウドファンディングを実施し、11 名 1 団体の方から合計で 20 万 2,000 円の御寄付をいただき、財源として活用した。近年、様々な不具合が生じているため計画的に修繕を行っていく。

令和８年度　第１回　稲沢市社会教育委員会・公民館運営審議会　会議録

（スポーツ課）

・トップアスリートとの交流事業として、7 月 23 日に小学生対象のバレーボール体験教室を開催し 129 名が参加した。また、初となるハンドボールの体験教室、これは豊田合成ブルーファルコン名古屋にお願いしたもので、3 月 25 日に開催し、12 名が参加した。

・スポーツ振興基金の運営では、優秀ジュニア選手の選考を行い、２名を認定し、小学生２名、ＢＡチームとジュニア生徒の方を表彰した。

・地区体育振興会では、運動会の方が必須の事業ではなくなっているが、令和 7 年度に運動会が予定された 9 月の週末は悪天候が続き中止となったため、参加者が少なくなった。

・市民体育大会では、参加者 1,993 人、前年比で 119 名減少した。

・第 37 回稲沢シティーマラソンは、11 月 9 日に開催した。当日は雨天のため、参加者 1,480 人、前年比で 200 人減少した。

・スポーツ参加人口は、令和２年度以降、新型コロナウイルスの影響で大きく減少し、近年は約３万人とコロナ以前の半数にとどまっている。令和７年度は前２年度よりも参加人口が減少したが、主に天候により地区運動会が中止になったことが理由である。

（図書館）

・利用状況について、全体に前年度と比較しやや減少傾向だが、入館者数は５%前後増加し、インターネットの館内利用も全体で５％程度増加した。電子図書の貸出冊数は 12%の増、予約数 19%増加した。

・中央図書館では、市内在住の作家による稲沢市図書館夏休みワークショップ「低学年向け読書感想文を楽しく作ろうよの会」を開催、祖父江の森図書館では、高校生議会での提案に基づき、愛知県立杏和高校のビブリオバトル決勝大会を一般にも公開し開催した。

・祖父江の森図書館では、名古屋文理大学連携講座「著作権って何？」を開催した。

（美術館）

・昨年度は油彩画を１点購入した。このためにクラウドファンディングを実施し、114 万円の御寄付をいただき、財源として活用した。　また、油彩画を１点、リトグラフを３点御寄贈いただき、荻須作品の所蔵点数は 274 点となった。クラウドファンディングについては、今後も続けたい。

・特別展は、「荻須高徳リトグラフ展稲沢市荻須記念美術館コレクション」を 10 月 24 日から 12 月 7 日まで開催した。稲沢市荻須記念美術館建設当時に荻須自らの寄付によるリトグラフコレクションを中心に、荻須のリトグラフの画業を紹介した。

・今回の特別展の図録は書籍として作成、販売したため、全国の書店等でも手に入るようになった。図録の帯やネット書店の紹介ページにより、荻須の情報、稲沢市荻須記念美術館特別展の PR が記載され、良い宣伝になった。

質疑応答

（委員）

・荻須高徳リトグラフ展の観覧者数が 4,916 人で、たくさん来ていただいたが、収入は多かったのか？

（美術館）

・今回の展覧会は通常の入場者数だけではなく、展覧会を企画会社が買い取り、東京会場に巡回した。パネルの買い取りや、東京会場での荻須のグッズ販売があったので、稲沢だけの力ではなく、東京会場でのグッズ売り上げ、作品の借用料で収入を得ることができた。そういう意味で新しい収入源を獲得できたと思う。

（委員）

・いろんなところで、お金を稼げるなら稼いだ方がいいという時代になっている。多くの方に来ていただき、収益を得るということも大事だと思ったので、公の機関ではあるが、何か工夫していただくのも良いと思い、質問した。

（委員）

・市民体育大会で、７月６日に行われた水泳大会、参加者 20 で、女子は 0、前年度に比べてどうなのか、これで開催できているのか。

（スポーツ課）

・前年度と同程度の人数だったが、女性は数名で昨年度は開催している。

（委員）

・３人しか出なかったら ３人とも入賞か。種目がいくつもあると、出場者が少なく限られてくる。同じ方が何回も出るのかどうかはわからないが、一つの競技に参加する人数も少なく、出た人全員が入賞するようなイメージかと思い、質問した。

（スポーツ課）

・大会はスポーツ協会に委託する事業で、数名でも開催している。

（委員）

・３人出場３人表彰となると、水泳大会をやる意義があるのか。やり方を工夫されるのか、この先もこのまま継続かが気になった。委託事業ということだが、検討の余地はあるのではないか。

（スポーツ課）

・各競技団体、スポーツ協会加盟の水泳は、水泳協会がこの事業をやっており、前回も含め、今回は参加者が若干少ないかもしれないが、一生懸命水泳をやっておられる方が毎年参加されるので、今のところ実施したいと思っている。

（委員）

・少々運営の仕方が気になるので質問した。もし改善できるなら、幅広く市民の方が参加できる水泳大会になると良いと思う。

・スポーツ振興基金の運営では、優秀ジュニア選手で、小学生が２人認定されたとのことだが、どのような種目か。

（スポーツ課）
・認定された種目について、今回の２名は、BMX という自転車競技とフィギュアスケートの方が当選となった。
（委員）
・こういう意見は、スポーツ団体には伝えているか。
（スポーツ課）
・はい。
（委員）
・意見を受けるか受けないかは別として、伝えるだけは伝えてほしいと思う。

※令和７年度主要事業報告について承認

２　令和８年度主要事業に係る取り組みについて
資料２「令和８年度主要事業に係る取組みシート」について生涯学習課、スポーツ課、図書館、美術館の順で説明
（生涯学習課）
・地域学校協働活動推進事業について説明。
（スポーツ課）
・トップアスリートとの交流事業について説明。
・第 20 回アジア競技大会（愛知・名古屋 2026 アジア競技大会）について説明。
（図書館）
・子ども読書活動の推進（稲沢市子ども読書活動の取り組み）について説明。
（美術館）
・没後 40 年特別展　小野竹喬と荻須高徳　―日本画家と洋画家、風景へのまなざし―について説明。

質疑応答
（委員）
・地域学校協働活動推進事業について、事例発表の中身が事業にふさわしいかを検討していく段階にきている。いつも事例発表会に参加しているが、発表内容が本当は市がすべきものではと思うことがある。本来は市がすべきものなのですがと一言付け加えるだけで、意義は変わってくるのではないか。
（生涯学習課）
・環境美化活動とか、市の予算では対応できないところも、学校が地域の方と一緒になって整備していただいているところもあり、これも含めて地域学校協働活動の一つとお願いしている立場上、あまり言及できない現状がある。
（委員）
・地域学校協働活動推進事業では、今年も多分事例発表は開催されるね。

（生涯学習課）
・日程は決まっていないが、3回ぐらいはお願いしたいと思っている。
（委員）
・トップアスリート交流事業について、祖父江中はハンドボール観戦になってしまった。指導を受けられると期待していた中学生が観戦で終わってしまい、本当にかわいそうだった。教育委員会は最初だけで、あとは全部学校任せで絡まない。大人の勝手都合でやるのではなく、子ども側にたたないといけない。先ほどの話でもあったように、全部委託してあるでは、すごく寂しい。スポーツ課は、どうなったか経過を把握するとか、仲介するとかなどをしないと、また同様のことが起こる。技術指導などで、アドバイスを受けるほうが、絶対に子どもは喜ぶ。そういう意味ですごく寂しい7年度だった。関わってください。
（委員）
・まさにハンドボールのことでそう思った。7年度は残念な結果だとお聞きして、8年度に向けて、本当に稲沢市の主要種目がハンドボールで、せっかく稲沢市でトップアスリートの選手がいるので、「いな活」のときに、今言ったようにうまく成果が出るようなお願いをしていく。豊田合成の方にも稲沢市の小中学生の子たちのハンドボールを強くしていきたいということをお伝えし、そのような指導をしてもらい、年間計画を立てていくかたちで「いな活」が有意義に使えたらよいと思う。
（委員）
・スポーツ課として８年度はどの様な動きで行くのか。
（スポーツ課）
・相手がある話なので確定的なことは言えないが、昨年度、ハンドボール体験教室の打合せで、何度か豊田合成・ブルーファルコンの事務所に訪問したので、その勢いでもう少し連絡を密にしてやっていきたい。
（委員）
・結果的に子どもたちが残念がることなので、喜ぶと、残念がるは大きな違いであり、ぜひこまめに交渉をお願いしたいと思う。実は１月冬休みに萩原中学校がブルーファルコンとやっていた。理由を聞いたら、３年生の先生が体験学習で生徒が豊田合成に行った時にハンドボールが決まったそうで、萩原中が簡単に実現したのに対して、小さな中学校はなかなか決まらなかったのかと思うとすごく寂しさを感じた。みんな同じようにやってほしいと思う。
（委員）
・シートに記載のシティドレッシングというのは何か。
（スポーツ課）
・市内シティドレッシングとは、本庁のエレベーターのラッピングや、街の中をフラッグ、ステッカーで埋めていく感じのものをいう。
（委員）
・スポーツに関しては、参加者減とか、体育振興会のスポーツ人口が減っているという

中で、図書館の７年度の報告では、入館者や電子図書とかいろいろなことで増加していると聞いた。今度は、読書離れということで、子どもが本を読む機会が少なくなっている中で、子ども読書活動推進計画のアンケートを今年実施するということなので、どんな傾向が、どのようなことをしたら読書が増えるのかという設問がアンケートの中にあるとよい。その結果で、次に何をしようかという、次に進んでいくことができると感じる。

（図書館）

・アンケートの質問は工夫したいと考えている。

・読書活動は、乳幼児から始まり、ブックスタートから、乳幼児の読み聞かせ、保育園・幼稚園、小中学校と、小中学校が主になると思うが、興味関心をもってもらえるような読書活動は、強要してもできないものだと認識している。楽しさを感じていただける、気づいていただけるよう、質問項目を工夫し、（アンケートに）入れるよう検討している。

（委員）

・美術館で、前回の企画の時に、グッズとか、お菓子、またバッグや額縁入りの絵画がすごく好評だった。今回も、そのような企画の予定はあるか。

（美術館）

・荻須作品については、在庫が若干あるため、新規作成は予算的には難しいが、小野竹喬のほうは、委託販売にて取り寄せて販売する予定である。

（委員）

・このような機会なので、コラボ商品があると、ここでしか購入できないものが目玉になるのではないかと思う。今回の企画展限定という文言に弱いので、限定商品が出たと、収益を上げるためには、そういうものの企画を考案していただけたらと思う。

（美術館）

・昨年度は、醸造会社からラスクを作っていただき、限定パッケージで販売したり、大阪にある荻須のファンの菓子屋が、限定ラベルのクッキー缶などを販売した。そういうところにも継続して、声掛けをしながら、できることを模索していきたいと思う。

（委員）

・美術館のその他事項、前年比較で、８年度が７年度より少ないので、前年度比マイナスで△が必要ではないか。　　**※指摘通り資料修正**

（委員）

・先ほどの意見で、美術館で特定のものがあると良いという意見があったが、市民会館の例で、誘致事業では、集客数、収益がすごいが、入るお金は多くはない。最初から誘致事業になるくらいなら、それを呼べないかと思ったりする。委託販売は手数料しかもらえないことも考慮し、美術館でしか購入できないものの開発も、せっかくの機会なのでお願いする。

・令和８年度主要事業とあるが、それ以外の目的も多いと思う。残念なのは、３月の定例教育委員会で、社会教育目標を提案するが、質問が２，３件程度しか出ない。すごく

寂しいということか、あるいは完璧なのか、特に喜んでいるのかがわからない。ぜひ、教育委員の方にもいろいろな点に関心を持ち、意見をいただけるとありがたいなと強く思う。

※令和８年度主要事業に係る取り組みについて承認

３　稲沢市の公民館について

資料３「稲沢市の公民館について」に基づき、生涯学習課から公民館事業について内容確認。

質疑応答

（委員）

・東海北陸公民館大会が一宮市で開催されるが、社会教育委員は参加するのか、できるのか。

（生涯学習課）

・現在わかっているのは、初日の会場が一宮市民会館、二日目の分科会は、一宮のｉビル（駅ビル）と木曽川町の施設となる。分科会は、委員の希望により、ｉビル会場は電車で、木曽川会場は公用車乗り合わせで行く予定。都合のつく方はぜひ御参加いただきたい。申し訳ないが、初日は、市長とPTAの語る会があり随行は１名か２名になる。希望は後日取らせていただく。

４　その他

（１）部活動地域移行の現状について

配布資料「稲沢市部活動地域移行だより　№.７」に基づき、部活動地域移行コーディネーターが進捗状況を説明

質疑応答

（委員）

・この地域移行だよりは、tetoruで配信されると思うが、部活動指導員には配布されないのか。

（部活動地域移行コーディネーター）

・各学校に全ての教職員と部活動指導員への配布を依頼しているので、今週末には配布されると思う。もらえない場合は、こちらから校長に伝える。

（委員）

・地域移行だよりに記載の内容について、子どもにも、親にも説明がない。自分で解釈し、判断しないといけない。（移行する）今、大変大事な時期だと思う。この地域移行が、５年、10年経っていれば、配信でよいと思うが、大事な変革期に、学校も子どもに説明しない、保護者までとは言わないが全くしていない。質問があるのかないのかは

わからないが、１年以上は、学校の先生、校長、教頭、または部活動の先生が、子どもたちに説明するべきだと思う。やはり、何もしないで、単に配布だけでは非常に寂しいと感じる。

・各学校に聞いたら、部活の終了時間は学校により異なり、基本的には５時半か５時である。なぜ、差があるのか不思議でたまらない。また、夏の大会前の７月だけは延長があるという、学校全部がバラバラである。昔のことだが、日没３０分前までが部活動時間となっていた。では、部活動指導員で平日指導してよいという人が、どうやって学校の活動時間終了後に指導をするのか、日没３０分前ぐらいまでやることと、当然並行して進まないとおかしい。どのようなやり方があるのか。

（部活動地域移行コーディネーター）

・学校のことについて自分が答えてよいかわからないが、今の話で、下校時間については、各学校の判断である点が大きなポイントになっている。文科省でも、まずは休日の学校の部活動を地域クラブ活動に移行すると表明しており、それと並行してできるところについては、平日の部活動も地域クラブの部活動にしなさいとの話をしてきた。

・自分の感覚で判断すると、教員の勤務時間内に下校時間がなっていくようになるのではないかと思う。そうすると、５時ぐらいには子どもたちが下校していると考えると、その５時から地域クラブ活動がやれるようになっていくのか。それがいつからかなのかは予想できないが、その可能性は十分にあると思う。

（委員）

・地域展開への「いな活」がこの９月から始まるということで、その９月以降も、各学校の部活動は継続されると聞いている。「いな活」で指導に入るとき、９月以降も平日、中学校へ指導に入ることもありということだが。

（部活動地域移行コーディネーター）

・いけないという話ではない。基本、今回の部活動集団の雇用は、あくまでも「いな活」の部活動指導員で、「いな活」自体が休日の活動であり、休日の活動ができ、かつその時間に余裕があれば、年間 160 時間の方がほとんどだと思うのですが、その時間以内で、平日も可能という方は行っていただいて構わない。ただし、計算上、150 時間位、休日で取るので、なかなか平日に回す時間はないのではと思う。

（委員）

・「いな活」で活動をしている生徒さんには、「いな活」指導者が指導をして、責任を持つが、学校には部活動の先生もいる。そのクラブ活動が優先で、「いな活」指導員が学校へ行って指導すると、越権行為ではないものの、そのあたりは、その先生とのやり取りで対応できると思うが。例えば、「いな活」の指導員なのに、なぜ学校の部活動に来るのかと思われる人がいるのではという心配はないのか。

（部活動地域移行コーディネーター）

・第一優先として、平日は学校の部活動ですので、（指導員が）学校の部活動に参加するとなったら、やはり顧問の先生ときちんと連携を取り合ってやらないといけない。したがって、部活動指導員が主になることはない。学校ではやはり教員が主であり、指導

員はその補佐と考えていただきたい。

（委員）

・すごく中途半端な感じがして、どちらかにすみ分けをきちんとした方がよいのではないかと思う。勿論、いい関係でやれる時もあるし、野球指導の方で、お金とかそういうことなしで、ボランティアとして中学校で指導してもよい、しているという方を聞いたことがある。両方が交わって、問題が起こらなければよいが、何かあった時の責任の問題とかもあるので、初めての移行で様子見ということもあるかとは思うが、その辺をおいおい考えていただければありがたいと思う。

（委員）

・子どもから連絡が来ていたが、先生方も働き方改革で、働ける時間が決まってしまうため、部活もその時間で終わりますと、５時ぐらいですか、その時間になったら、平日はもう先生方はいないということになる。ということは、本来の部活の時間、平日の部活はなくなるのかという認識を持った。そのあたりについて伺いたい。

（部活動地域移行コーディネーター）

・今のところ、部活動が無くなることはない。一応、勤務時間内に関しては、部活動は教育的意義もあるということで進めていく。文科省も勤務時間外の部分のことを話しているが、勤務時間内については今のところ、続けていく方向。

・ただし、今勤務時間内と言っても、４時 50 分とか 45 分が教員の勤務時間になっているところが多い。となると、５時前あたりが終了なってくる。ただ、完全に勤務時間内しかやっていけないとうわけでもなく、各学校の判断のもと、先ほどの部活動の下校時間も異なるように、柔軟に各学校で判断しているので、今のところなくなるということはない。

（委員）

・ブラスバンドについて、このクラブ、「いな活」がいずれなくなり、地域クラブ活動のみに展開するということは、中学校の体育館で行っているものが、市民吹奏楽団ジュニアに完全移行するということか。

（部活動地域移行コーディネーター）

・「いな活」と地域クラブは全く別物なので、ジュニアはジュニアの方で、同じ地域クラブ活動として立ち上げていただき、将来的にジュニアのように、地域の人が立ち上げて子どもたちを教える活動が他にも出てきたらよいと思う。

・問題としては、場所と楽器が必要となるため、必要となったときに、どこまで学校が協力できるかが大きなポイントとなると思っている。

（委員）

・具体的なイメージが設定しにくいのが難しいというか、ちょっと腑に落ちない部分もあり、結局どうなるのかが疑問だったので質問した。

（部活動地域移行コーディネーター）

・ブラスバンドは、本当に今の話にあるようにいろいろなハードルが高くて、場所と楽器の両方がそろわないとできないこともあるため、今のところ、市民吹奏楽団ジュニア

がやっていただけるのは本当にありがたい。それ以外のところを開こうとした場合、どこまで開けるのかというのは心配している。

・また、運動系に関しては、今後体育館とか学校のところを使って、いろいろなところがどんどんできたらよいと思っている。

（委員）

・（移行だよりの）裏面、ブラスバンドのことで、通常運動部の場合はジュニアと呼ばれるものについては、県大会に直接登録をして、特別枠で県大会に参加していく形が多いと思う。ただ、地域認定クラブに認定されれば、地区大会から出ることができるとなっているが、このジュニアの吹奏楽を作ったときに、「いな活」をしながらジュニアでも専門的に教えてもらおうと所属したときには、普通、運動部で言う二重登録となる。愛知県吹奏楽コンクールの県大会があるが、その西尾張があって、稲沢があって、各学校単位で出ている。このジュニアの子たちは、定期演奏会が開かれるとはいうものの、地域クラブとここには書いてあるので、認定地域クラブに近いイメージで書いていらっしゃる気がする。そうすると、子どもたちは吹奏楽の県大会に出られるということはないのか、どうか。

（部活動地域移行コーディネーター）

・吹奏楽団の方に確認したところ、吹奏楽団は認定ではなく、地域クラブ活動でＯＫと聞いているので、地域クラブとして吹奏楽団の方に登録をすれば、西尾張大会から出ることができると聞いている。

（委員）

・となると、現時点で「いな活」に登録している子たちが、例えば稲中で「いな活」に出ている子は、稲中としても、ジュニアとしても出られる。ということは、二重登録の恰好になりますね。

（部活動地域移行コーディネーター）

・そのように、二つ登録する子がいるとは考えておらず、どちらかを選ぶものと思っていたので、その二重登録に関しては確認をしたいと思う。自分もこの場では答えることができない。

（委員）

・この文書を読むと、「いな活」として学校でやります。さらに、ジュニアとして稲沢市民吹奏楽団が子どもたちの指導も受け持ちますよという書き方なので、それははっきりしていかないと誤解されるような気がする。

（部活動地域移行コーディネーター）

・その辺、また調べてお答えする。

（委員）

・こういう文書は本当に大事で、先ほど述べたように説明しないと本当にいけない。学校が説明できるようにしておかないと、文字だけでは絶対に自分に都合のよい解釈を当然するものなので、その辺りをぜひ学校に説明ください。

・本当にどんなことでもそうで、今の段階は１年間以上は、絶対に軌道に乗るまでは、

説明をしないと。文書だけでは絶対にいけない、絶対に説明をするようお願いする。
・先ほども質問したが、日没までやらせてもらうにはどうしたらよいか。一宮市はもうやっている。

（部活動地域移行コーディネーター）
・今のところはまだ、地域クラブとしての立ち上げるのかどうかがポイントとなっていると思うので。

（委員）
・学校が勝手にどんどん帰る時刻を決めているが、部活動の取り扱いは曖昧、これは不十分な対応である。最終、平日まで地域クラブへ持っていくわけですね。決めるべきことを、きちんと積み上げていかないと、土日だけとか。土日、長期休業中の中学校は部活をやらないから、寂しいですよね。「いな活」だったら勝手にやっていいのですね。

（部活動地域移行コーディネーター）
・「いな活」は長期休業中も関係なく土曜日曜やっていただけるが、お盆や正月や、行事なし日は休ませていただくが、それ以外の土日はやっていただく予定。

（委員）
・ぜひ、日没３０分前までできるようにしてほしい。

（部活動地域移行コーディネーター）
・３課で会議しながら検討していきたいと思う。

（委員）
・質問ではないが、この地域移行にあたり、母親もそうだが、委員の皆さんがいろいろわからないことをたくさん質問しているところを見ると、一番困っているのは、子どもではないかと思う。私の知人で、中学生に上がる子がいるが、部活はどうするのか尋ねたところ、「もうやらない」と言っている。
・恐らく、母親がよくわからないので、先生と同様に、子どもに説明ができないし、自分の仕事の都合などもあり、子どもにどうするのがよいかを言うことができない。子どもが何かやりたいと言ったときにアドバイスができないので、親は、今は訳が分からないので、やめておいたほうがいいというようになるのではないか。親は知らない、わからない。
・実際に、私が聞いてみても、どうなのかと思いつつ、子どもに聞いてみると、部活も土日はないからと言う子もいるし、もう部活はやらないという子もいる。どうしてか尋ねると、「お母さんがいいって言ったから」と答える。やはり、親に聞くのだろう。
・したがって、親御さんがわかるようにしてあげたらと思う。懸念するのは、子どもが部活をしないで家にいると、家にいても塾とか行くところが決まっている子はよいが、結局スマホで遊ぶだけか、一番怖いのは非行に走ること。運動をしない、行くところがないため、悪いことしか考えない、体力が余っているから。中学生の 13 歳から 15 歳は、一生涯のうちで最高潮の体力があるとき。それなのに運動ができないというのは、じゃあ、部活へ行っていればいいじゃないか、それもそういうことがしていいのかも親が判断しにくい。プロのクラブへ入れば別だが、そんな子ばかりではないので、移行が

うまくいくように、全員が非行に走るわけではないが、子どもがちゃんと有意義に時間が過ごせるようにしてあげるのも、やはり大人の責任だと思う。

・教員の皆さんの働き方改革もあるが、子どもたちが一番たくさん経験ができる、一番大事な時期が、この中学校の時期なので、心配なくいろいろなことができるようなシステムづくりを、親御さんにも、もちろん子どもにも伝わるようにしていただきたいと強く思う。

（委員）

・要望が多かったと思うが、是非検討していただきたい。やはり、主は子どもです。うまくいく方法はないか、それを考えてほしい。

・こういう地域移行だよりについても、何か変わったときは、学校にきちっと言葉で説明していかないといけない。文字だけ送ってもの意味がないと思っている。ぜひその辺を改めてほしい。

・それから、平日の部活に参加してもよいという部活動指導員の先生がいたら、ちゃんとやれるシステムに持っていかないと、バランスを欠くことになる。

・ぜひそのあたりも含めて、関係課長、部長、教育長が一緒に知恵を絞って考えていただきたいと思う。

（教育部長あいさつ）

・本日の会議への参加、及び長時間にわたる活発な議論をいただいたことへのお礼。

・特に、部活の地域移行については、自治体によっては、休日の部活は行わないという判断をしているところや、ブラスバンドでは、課題解決が困難で、やらないという判断をしている例もある。その中にあって、当市はどこまでできるかという提案をさせていただいているのが「いな活」である。御指摘いただいたように多くの課題があるが、それらを引き算ではなく、現状からの足し算により、一つ一つの課題をクリアしながら、結果として皆さんが求めるレベルとなるよう、よりよいものにしていければと考えている。

〈午後３時 35 分閉会〉